

～戦争も核もない世界を武蔵野から～

## パネル展資料

昭和 19 年 11 月 24 日から

始まった武蔵野の空襲と

中島飛行機

<解説>なぜ、武蔵野に空襲があったのか？

主 催：武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会

資料提供・協力：武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会

## 1. なぜ、この町に空襲があったのか？——中島飛行機武蔵製作所

みなさんは、「はらっぱ公園」の愛称で親しまれている都立武蔵野中央公園や都営武蔵野アパート、緑町パークタウン、そして市役所のある場所が、その昔、激しい空襲にみまわれた大軍需工場の跡地だということをご存知ですか？

その工場は、“中島飛行機武蔵製作所、（以下、「中島武蔵工場」と略します）

とって、戦前日本を代表

する航空機メーカーであった中島飛行機株式会社のエンジン工場でした。最盛時には約5万人が、24時間操業で働き、「零戦」や「隼」といった軍用飛行機のエンジン（当時は発動機と呼ばれました）を生産していました。その量は日本の全生産量の30%近くを占めていました。

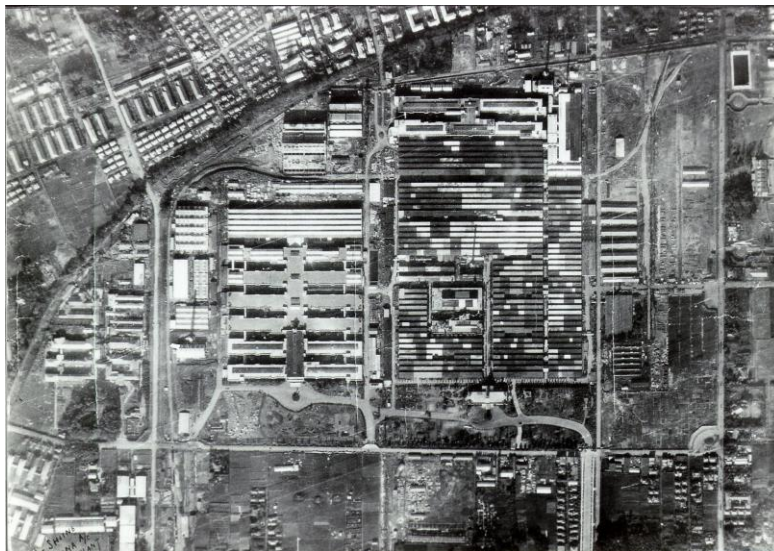
工場の敷地は、東は現在の武蔵野市宮陸上競技場から、西は伏見通りを越え、八幡町4丁目まで広がっていました。面積約56万㎡、東京ドーム約12個分の広さでした。

こんな巨大な工場の傷跡が、どうして今はどこにも見当たらないのでしょうか？ それは、この工場がアジア太平洋戦争（1941～45年）の末期に、アメリカ軍の空襲によって徹底的に破壊されたからです。

1944年（昭和19年）11月24日、マリアナ諸島からのB29による日本本土空襲が始まりました。その最初の目標となったのが、この中島武蔵工場でした。その後、日本本土空襲は激化の一途をたどり、東京、大阪、名古屋などの大都市から地方都市までが無差別に爆撃され、ついには広島・長崎への原爆の投下に至ります。

その間にも、アメリカ軍は中島武蔵工場を繰り返し爆撃しました。その回数は、敗戦までに合計9回に及び、従業員ら200名以上が死亡し、500名以上が負傷したといわれています。

しかし、死傷者は工場内にとどまりませんでした。工場を狙ったはずの爆弾は、しばしば周辺地域に落下し、一般市民に多くの犠牲者を出しました。死亡者の数は、現在の武蔵野市、西東京市、三鷹市、東久留米市、練馬区などで500名を下らなかつただろうと思われます。特に、子どもたちの犠牲者が多かったことが特徴であり、空襲の一番の犠牲者は幼い子どもたちだというのは今も昔も変わりません。



1944年11月初めに撮影された偵察写真

## 2. 中島飛行機武蔵製作所への空襲はどのように行われたのか？

合計9回の中島武蔵工場に対する空襲は、どのように行われたのでしょうか？

中島武蔵工場に対する空襲で、実際に工場に何らかの被害があったものは、右表の9回です。これらを大きく分けると4つに分類できます。

### (1) 初期の高高度からの空襲（11月24日から）

まず、1944年11月24日の初空襲から翌1945年1月9日までの4回の空襲です。

この4回の空襲は、約1万m上空という高高度から250キロ爆弾を投下した、という点で共通する特徴を持っています。

空襲日	損害 (%)			死者 (人)	負傷 (人)
	建物	設備	機械		
11/24	1	0	2.4	57	75
12/3	5	2	0.1	60	21
12/27	5	2	0.9	8	40
1/9	2	0	0.2	6	8
2/17	25	5	3.2	80	115
4/2	4	0	1.1	3	2
4/7	10	0	0.6	1	1
4/12	10	5	0.5	1	1
8/8	60	80	0	4	3
合計				220	266

「米軍戦略爆撃調査団報告書」より

### 9回に及んだ空襲の概要

しかし、犠牲者には大きな違いがありました。それは、天候の良し悪しという要因と、工場側の対応という要因がありました。

**11月24日**は、空襲警報とはほぼ同時に空襲が始まりました。その理由はわかりませんが、「空襲があっても生産をとめるな」というのが至上命令であり、従業員は工場から外へ逃げることができませんでした。彼らは工場内の退避壕（防空壕）や「地下道」に逃げ込みますが、これが死者50名以上の背景です。

**12月3日**は、学徒や女子を優先して、工場外に建設されていた防空壕に退避させました。しかし、運悪く、爆弾はそれら防空壕をも襲いました。競技場のスタンド下に設けられた防空壕、下野谷（現・東伏見坂上）に設けられた大防空壕、武蔵野女子学院内に設けられた防空壕にも爆弾が落ちました。死者60名のうち16名はこれら防空壕で死亡した勤労働員学徒の犠牲者です。工場周辺であれば、どこにいても空襲は避けられないことを示しています。また、この日は初めて武蔵野町で一般市民の犠牲者がありました。

**12月27日**および1945年**1月9日**は、ほぼ同様の方法で行われます。12月27日は、中島飛行機武蔵製作所の付属病院（現・八幡町四丁目）が焼失しました。しかし、職場単位で疎開が始まったこと（病院はすでに疎開し、空でした）、従業員も空襲となると遠くへ退避するようになったことなどから、犠牲者の数は減りました。しかし、中島武蔵工場以外では、1月9日の空襲で、関前にあった大沢螺子製作所で工員2名が死亡し、市民の犠牲者も西窪（現・緑町および現・西久保の源正寺南）などでありました。

## (2) 2月17日空襲——最大の犠牲者、東工場は機能停止。海軍艦載機による作戦

他の8回の空襲が陸軍航空部隊のB29を主体にした作戦だったのに対し、1945年（昭和20年）**2月17日**の空襲は海軍航空母艦（空母）から発進した艦載機という小型の爆撃機による作戦でした。2月16日と17日は、硫黄島攻略作戦に合わせて、関東地方の主要な軍事目標を攻撃する艦載機による作戦が激しく展開されました。中島武蔵工場も、この時、目標の一つとなったのです。

この空襲は低空から執拗に行われたため、工場の犠牲者は80名にのぼり、中島武蔵工場における1回の死亡者数として最大となりました。また、東工場はこの攻撃によって壊滅状態になりました。

## (3) 4月2日空襲——照明弾、「時限爆弾」が使われた夜間空襲

3月10日の東京大空襲を境に、アメリカ軍による日本本土空襲は様相が大きく変わります。**4月2日**の中島武蔵工場に対する空襲は、夜間に低空から行われました。作戦に参加したB29各機が照明弾を4つずつ搭載していました。しかし、作戦は目標を見出せずに失敗に終り、4,000発以上、重さにして1,000トン以上の爆弾は、ほとんどが北多摩各地に雨あられとふりそそぎました。工場周辺の現在の武蔵野・三鷹・西東京市はもちろんのこと、現在の東久留米市・東村山市、練馬区、埼玉県南部など広範囲に被害がありました。

中島武蔵工場では、グラウンドの東から武蔵第一青年学校（旧・武蔵野青年学校。現・武蔵野第四中）および同校寄宿舎が焼失、板橋区（現・練馬区）の関町、武蔵関駅周辺に爆弾が落ちました。武蔵野町でも、境浄水場や横河電機の北側などが被爆しました。

それ以上に酷かったのは田無町および保谷町（現・西東京市）を中心とする北多摩地域で、合計すると160名の一般市民が亡くなったといわれています。

町名	爆弾			死者	傷者	被害家屋	罹災者
	爆弾	焼夷弾	不発弾				
武蔵野	113			20	3	26	} 520
田無	155			31	2	23	
東村山	81			3	0	11	
三鷹	51		7	28	2	24	
小平	162		5		0	18	
清瀬	30			18	-	14	
保谷	100以上			46	1	25	
久留米	322		24	6	1	5	
武蔵関	96		7	8	1	2	
計	1,110		43	160	10	148	

※ 警視庁による統計。『東京大空襲・戦災誌』第3巻より

## (4) 4月7日、12日、8月8日——1トン爆弾

**4月7日**、中島武蔵工場の空襲に、はじめて1トン爆弾が使用されます。中高度からの爆撃でしたが、それを可能にしたのは、3月に陥落したばかりの硫黄島に配備されたP51戦闘機約90機がB29の援護についたからです。7日は晴天で見通しが良かったことから、すでに崩壊していた東工場を中心に多数の1トン爆弾が落下し、東工場は完全に崩壊します。使用された

1 トン爆弾は約 500 発、工場内に落ちたのは 138 発といわれています。

**4月12日**も、同様の方法で行なわれますが、この日は「春霞（はるがすみ）」のために視界が悪く、多くの B29 がレーダーを用いて爆撃を行いました。そのために「誤爆」が起こります。田無駅北口前、所沢街道北原で 100 名以上といわれる一般市民が亡くなりました。武蔵野町関前では高射砲陣地を直撃し、兵士ら 30 名近くが死亡します。

**8月8日**は、いわば「駄目押し」の作戦だった、といえます。最後まで残っていた西工場を破壊することを狙ったものです。この空襲も 1 トン爆弾によるものであり、確かにこの空襲で西工場の一部は完全に崩落しました。しかし、この空襲でも周辺地域に爆弾が落下し、保谷町（現・西東京市）や武蔵野町関前でも一家全滅の悲劇がおこりました。

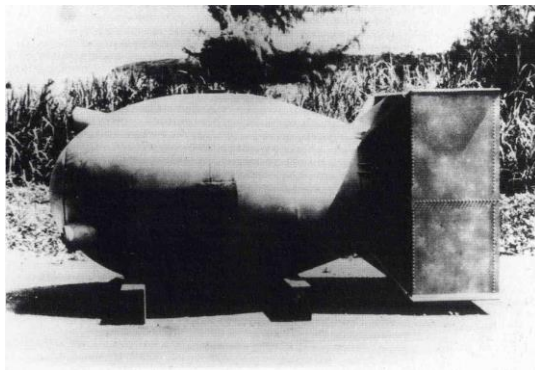
### （5）原爆の模擬爆弾が柳沢に投下されていた！

中島武蔵工場をねらった組織的な空襲は以上の合計 9 回でした。これ以外にも、もちろん、戦争末期には戦闘機による機銃掃射（きじゅうそうしゃ）などの空襲がありました。

その他に、1945 年 **7月29日**、柳沢駅南の畑の中に、たった 1 発なのに非常に強力な爆弾が落ちました。畑仕事をしていた女性や子どもが合計 3 名、亡くなりました。しかし、その爆弾は長く謎のままでした。

戦後 30 年あまりの年月が経ち、この爆弾の真相が判明します。この爆弾は、原爆を投下する訓練や実験を兼ねた「原爆模擬爆弾」投下作戦として投下されたもので、重さが約 4.5 トン（爆薬は通常のを約 2 トン入れていた）

あり、その形状は長崎に落とされた原爆「ファットマン」（ふとっちょ）と同じで、色は黄色だったので「パンプキン（かぼちゃ）爆弾」といいます。こうした模擬爆弾が全国約 50 ヶ所に投下されたことが今ではわかっています。柳沢に爆弾を投下した B29 は「ボックスカー」という愛称で、この B29 が 8 月 9 日に長崎に実際に原爆を投下しました。



原爆模擬爆弾＝パンプキン爆弾

### 3. 今も残る戦争の傷跡、慰霊碑

激しかった空襲から 68 年の時が過ぎました。一見すると、みどり豊かで、平穏そのもののこの地域が、かつてそんな「戦場」だったことを思い起こさせるものは何ひとつないようです。

しかし、調べていくと、ここにもあそこにも戦争の時代を物語るものがあることに気づくのです。そんな戦争の時代を物語る遺構を戦争遺跡といいます。また、こうして亡くなっていった人たちを慰霊し、平和を祈念する慰霊碑やモニュメントがあります。

戦争の時代の記憶は風化する一方です。ぜひ、このパネル展を機会にその場所を訪ねてみてはいかがでしょうか？そんな願いを込めて、今回のパネル展を企画しました。おもな戦争遺跡と慰霊碑・モニュメントを紹介します。

#### (1) 緑町・八幡町地域

- ① NTT 武蔵野研究開発センター——武蔵製作所東工場（北側部分）の跡地など
- ② 武蔵野市営陸上競技場・市営プール——中島のグラウンド跡・プール跡
- ③ 武蔵野市立武蔵野第四中学校——中島飛行機武蔵野青年学校の跡
- ④ 都営武蔵野アパート——武蔵野製作所（東工場）の跡地
- ⑤ 高齢者総合センター——武蔵野製作所の正門の場所
- ⑥ 都立武蔵野中央公園——多摩製作所（西工場）の跡地
- ⑦ 八幡町住宅（4丁目）——中島附属病院の跡地
- ⑧ 千川小学校——中島飛行機多摩青年学校寮の跡地

#### (2) 五日市街道沿いと関前

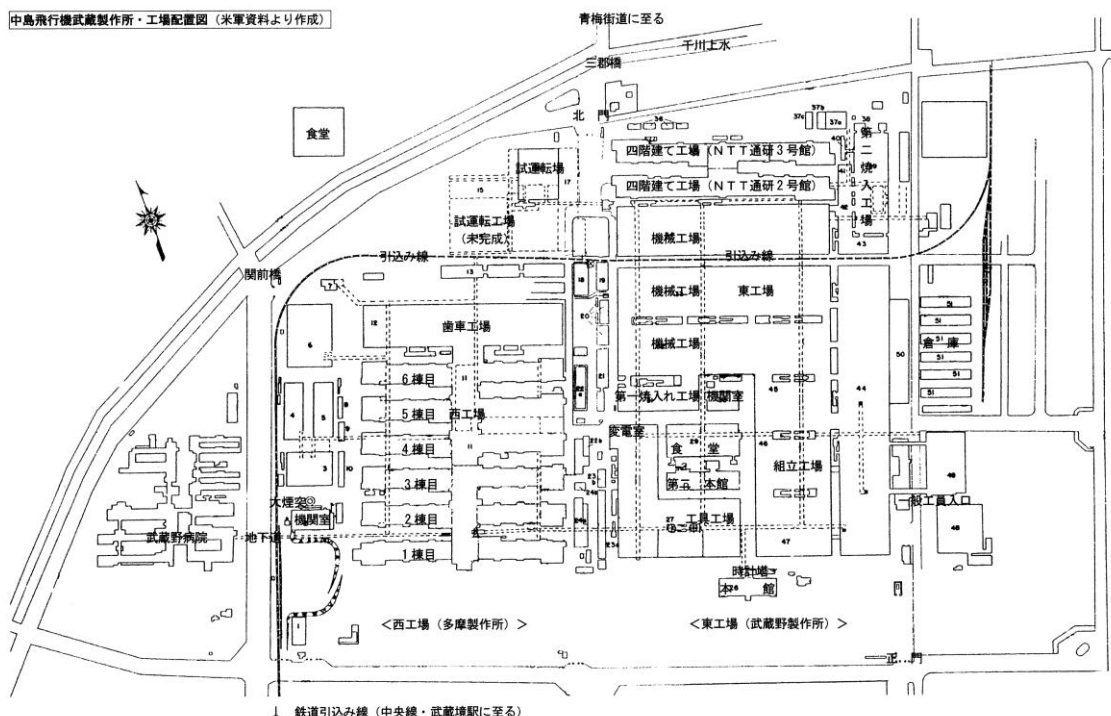
- ① 市民文化会館——かつての町庁舎の跡地。南の武蔵野一中は爆弾の穴だらけだった
- ② 源正寺——土地買収をまとめた場所。本堂は爆撃で倒壊、慰霊碑「俱會一處（くえいっしょ）」、傷付いた墓石が多数ある
- ③ 延命寺——250 ㎡爆弾の破片、機銃掃射の弾、平和観音菩薩像、平和の鐘
- ④ 武蔵野女子学院（西東京市新町）——「散華乙女の碑（さんげおとめのひ）」
- ⑤ グリーンパーク遊歩道——中島への引込み線を利用
- ⑥ 境浄水場脇の玉川上水にかかる「ぎんなん橋」——引込み線の跡
- ⑦ 三鷹駅北口——中島のために開設された武蔵野口に、平和を誓う北村西望作「平和の女神像」

#### (3) 青梅街道沿いの柳沢・東伏見地域

- ① 東伏見稲荷神社——中島武蔵製作所の殉職者慰霊碑、国旗掲揚塔
- ② 東伏見坂上——下野谷遺跡の下が大防空壕跡
- ③ しじゅうから第二公園——原爆模擬爆弾の投下爆発跡

## ■ 工場配置

中島飛行機武蔵製作所・工場配置図（米軍資料より作成）



## ■ 資料「中島飛行機武蔵製作所と空襲」

### 1. 武蔵野地域における中島飛行機の進出

- 1925 (T14) 荻窪に東京製作所（→ 荻窪製作所）  
……発動機の開発と製造
- 1933 (S8) 頃 田無・谷戸に荻窪製作所の試運転場  
→ 騒音問題の発生
- 1938 (S13) 武蔵野・西窪に、武蔵野製作所  
……陸軍専用発動機工場
- 1939 (S14) 田無・谷戸に、鍛鍛工場、中島航空金属
- 1941 (S16) 武蔵野・八幡町に、多摩製作所  
……海軍専用発動機工場  
三鷹・大沢に、三鷹研究所を建設、着工
- 1943 (S18) 武蔵野・多摩が合併→ 武蔵製作所
- 1944 (S19) 11月 マリアナ諸島からの日本本土空襲  
→ 各地に工場疎開（浅川地下工場ほか）
- 1945年（昭和20年）8月15日 敗戦

### 年表

- 1925年 治安維持法
- 1931年 満州事変
- 1932年 五・一五事件
- 1936年 二・二六事件
- 1937年 日中全面戦争
- 1938年 国家総動員法
- 1941年 太平洋戦争開戦
- 1942年 ミッドウェー海戦
- 1943年 ガダルカナル島からの撤退  
学徒出陣
- 1944年 学徒勤労働員  
11月、日本本土空襲
- 1945年3月 東京大空襲  
4月～沖縄戦、  
8月 広島・長崎に原爆、  
ソ連対日参戦。敗戦

■ かつての軍需工場の跡地は、いま？

町名 年	八幡町4丁目	八幡町2丁目	緑町2丁目
1938			<b>武蔵野製作所</b> 開所
1940	付属病院開所		
1941	↓	<b>多摩製作所</b> 開所	
1943	↓	<西工場> 10月 <b>武蔵製作所</b> に統合	<東工場>
1944	疎開	11月24日初空襲。その後、	
1945	崩壊	合計9回の爆撃	
		<敗戦>	
1948	都営関前住宅	↓	殉職者慰霊碑、建立
1950	↓	廃墟のまま放置	
1951	↓		<b>電気通信研究所</b> 開所
1952	都営関前第2住宅	米軍住宅建設、開始	グリーンパーク野球場、開設
1953	↓	<b>米軍住宅グリーンパーク</b> 開所	都営住宅、建設
1958	↓		緑町住宅、建設
1964	民間払い下げ		福祉会館建設で慰霊碑、移転
1976	↓	グリーンパーク撤去工事(~77)	
1978	↓		グリーンパーク遊歩道、開設
1989	↓	都立武蔵野中央公園、開園	
1999	現：都営八幡町4丁目	掲示板、設置	旧 第一焼入工場
2001	アパート		2,3号館と「地下道」解体

<参考文献>

- \* 牛田守彦『戦時下の武蔵野 1 - 中島飛行機武蔵製作所への空襲を探る』ぶんしん出版 2011年
- \* 牛田守彦・高柳昌久『増補版・戦争の記憶を武蔵野にたずねて』ぶんしん出版、2006年
- \* 長沼石根「昭和の武蔵野・番外編・中島飛行機武蔵製作所物語」(『季刊・むさしの』No.55 ~62、2001年夏~2003年春、連載・所収)
- \* 夏期市民講座記録の会・武蔵野市教育委員会編「戦争と平和を考える・戦争と武蔵野市・中島飛行機を中心に」、1979年
- \* 同編 スライド「戦争と平和を考える - 中島飛行機を中心に -」、1980年
- \* 同編「戦争と平和を考えるII・戦争と武蔵野市・夏期市民講座の10年」、1984年
- \* 米国戦略爆撃調査団資料(国立国会図書館憲政資料室所蔵) ほか